

# 麻疹(はしか)について

# 健康 コラム



秋田厚生医療センター

みずの すみえ  
感染管理認定看護師 看護師長 **水野 住恵**

## はじめに

新型コロナ感染症は昨年5月に5類感染症に移行され、公費による支援も今年4月からはほとんどが打ち切りになりました。世の中も落ち着きを取り戻しているかと思えます。しかし、感染症がなくなったわけではないので、高齢者の多い秋田県では、県民一人一人が基本的な対策を継続していきたいものです。さて、今回はコロナ以外の感染症のお話をしようと思えます。

今年に入ってから麻疹が流行しているとニュースになっています。麻疹って子供の病気で昔の話でしょ？と思う方もいるかと思えますが、残念ながら現在も根絶には至っておりませんし、伝染力は強く、罹患すると重症化したり、後遺症が残ったりする怖い感染症です。

## なぜ感染者が増えているのか

日本は2015年3月にWHOから土着の麻疹ウイルス(昔から日本にいる麻疹ウイルス)は排除状態であると認定されていました。しかし、今でも海外には麻疹の流行国があります。最近では海外へ出かける人が増え、また日本へやってくる外国人も増えたことで持ち込まれ広がったようです。麻疹は「空気感染」しますので、レストランや電車を共有しただけで、近くにいないでも免疫を持っていない人は感染が成立してしまうのです。

麻疹の予防はワクチンを接種して免疫をつけることしかありません。新型コロナウイルスのワクチンの際にも聞いたことがあるかと思えますが、「**集団免疫**」をつけることが流行を防ぐ手立てになります。ところが、コロナ禍に入って、様々な制限からワクチンの接種率が下がっていると言われております。麻疹の流行を防ぐためには全体の接種率が95%を超える必要があると言われております。しかし、厚生労働省が公表している2022年4月1日～2023年3月31日の麻疹ワクチン接種率は全国で92.4%となっており、県別で見ると、鹿児島県、北海道、沖縄県は特に低く、90%を切っております。95%を超えているのは香川県のみでした。ちなみに秋田県の接種率は香川県について2位ですが接種率は94.7%とわずかに95%に届かない結果になっておりました。興味のある方はインターネットで簡単に検索できますので確認してみてください。

## 予防接種が不十分な年代は注意が必要

予防接種の制度の変遷によって、抗体の保有率が低い年代があります。

ポイントは「自然感染したことがある」か「ワクチンを2回接種している」です。

生年月日	
1972年(昭和47年)9月30日以前生まれ	1回も接種していない可能性が高い年代。1978年(昭和53年)10月1日から定期接種を開始していますが(対象者は生後12か月から72か月)、自然感染によって免疫を十分に持っている人以外は合計2回のワクチン接種をお勧めします。
1972年(昭和47年)10月1日～1990年(平成2年)4月1日生まれ	定期接種として1回しか接種していない年代。特例措置*非対象者のため、免疫を十分に持っていない可能性があります。これまでに2回接種を受けていなければ追加の接種をお勧めします。
1990年(平成2年4月2日)～2000年(平成12年)4月1日生まれ	特例措置*対象者に相当する年代。接種率が低かったため対象時期に2回目の接種を受けておらず、これまでに2回接種を受けていなければ追加の接種をお勧めします。
2000年(平成12年)4月2日以降生まれ	定期接種として2回接種を受けている年代。これまでに合計2回の接種を受けていなければ追加接種をお勧めします。

\*特例措置:2008(平成20)年4月1日から5年間の期間限定で実施された措置のこと。麻しん風しん混合ワクチンの定期接種対象者が第3期(中学1年生相当)、第4期(高校3年生相当)にも拡大され、2回目のワクチンが接種可能でした。

## これからできる対策

クリニックなどで抗体があるかどうかについて検査で調べることが可能です。また、明らかにワクチン接種をしていない、罹患していないなら、検査せずにワクチン接種を2回受けるのも「手」です。ただ、現在は接種したい人が多いらしく、麻疹ワクチン、またはMR(麻疹・風疹)ワクチンが不足しているという情報もあります。また、病院によっては、抗体価測定や、ワクチン接種の対応をしていないところもあるかと思えます。従って、希望の場合は、まず電話をして、対応している医療機関なのかを確認してから足を運ぶことが良いかと思えます。

ワクチンを打ったかわからない、罹患したかわからない人は、ちょっと高いワクチンではありますが、接種することをお勧めいたします。